

りょう ない ばし

領内橋

中部地方の 選奨土木遺産

所在地：三重県多気郡大台町 竣工年：1923（大正12）年竣工

管理者：大台町

認定理由：昭希少なピントラスの道路橋で、100年以上にわたり1級河川宮川の渡河を担う、貴重な土木遺産である。

令和7年度登録

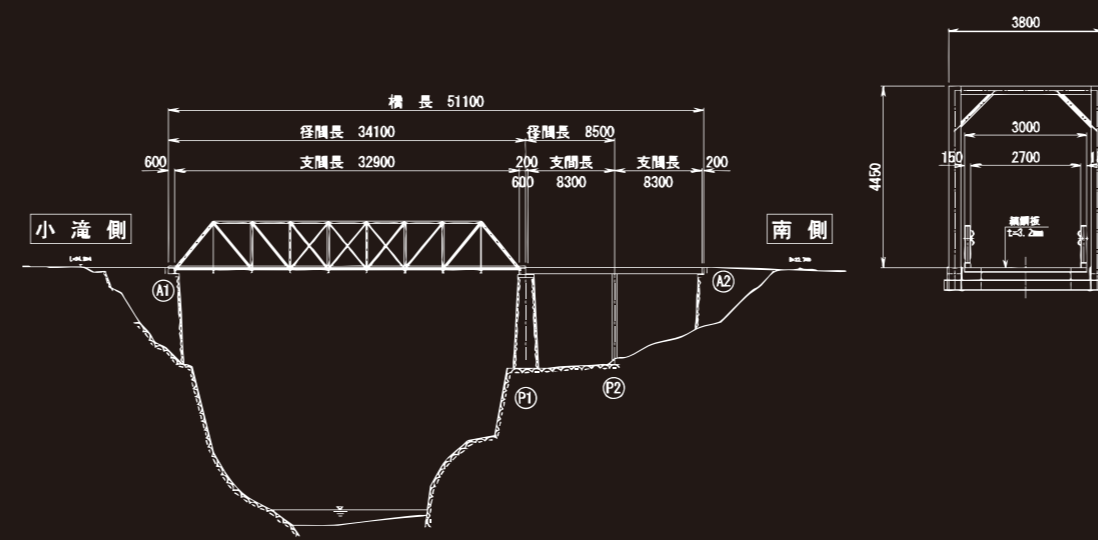


▲ 水面から約9mの高さに橋面があり、宮川の渓谷美を眺望することができる。

1級河川宮川に架かる領内橋は、1923（大正12）年に架橋された、橋長（全長）51m、有効幅員2.7mで、トラスの格点がピン構造（ピントラス）の下路平行弦プラットラス橋1径間と単純H桁橋2径間よりなる。

ピントラス橋は全国に8橋しか残されておらず、領内橋は、移設や規模縮小をされていないものの中で、最古のピントラス橋である。トラスに用いられている鋼材は官営八幡製鐵所によるものだ。領内橋は100年以上に渡り、現在の場所で宮川の北南岸の往来を担い続ける、歴史的に大変に価値の高い橋梁である。

領内橋は、宮川の上流域に架橋され、紅葉の季節になると、色鮮やかに染まった兩岸の絶景を高い位置から楽しむことができる良好な視点場でもある。1972（昭和47）年に実施された床版部の補強、1992（平成4）年に実施された塗装の塗り替え以外の大部分は竣工当時の姿を残しており、大変貴重な遺産と言える。



▲ 領内橋側面図



▲ トラス格点のピン構造部



▲ 竣工当時



▲ 領内橋は2025年現在、車両通行止め（歩行者と二輪車は通行可能）となっている。

